パートナー情報誌

香　澄

第 25 号
発行日：2012 年２月１日
発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部会
編集員：浅野明宏、有吉潔、稲葉寛、尾形孝彦、栗原知彦、新関紀文、平江俊之、安川敏行、深澤幸義、高橋慎、松本忠士、中根尚美

平成２３年度霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式

表彰式の様子

平成２３年１２月３日(土)に、センター多目的ホールにて霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式を開催しました。このコンクールは、霞ヶ浦に対する子ども達の関心を高めることを目的として、霞ヶ浦水質浄化強調月間を中心に募集を行っています。

表彰式では,応募総数１，５５８作品の中から審査会で選ばれた７１作品の入賞者に表彰状が授与されました。入賞者とそのご家族約２００名が出席し、とても晴れやかな表彰式となりました。

当日は、パートナー３名の方にお手伝いいただき、ありがとうございました。子ども達の素晴らしい作品は現在、巡回展示を行い県内各地を回っているところです。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

（センター：中根）

◎巡回展示スケジュール

	場　所	展示期間		
1	白浜少年自然の家	1月　8日(日)	～	1月22日(日)
2	県南生涯学習センター	2月　3日(金)PM	～	2月12日(日)
3	県西生涯学習センター	2月17日(金)	～	2月28日(火)AM
4	あじさい館	3月　6日(火)PM	～	3月22日(木)

◎県知事賞受賞作品

小学校低学年部門

牛久市立ひたち野うしく小学校
３年　中泉　季恵さん

小学校高学年部門

石岡市立石岡小学校
６年　前野　今日香さん

中学生部門

結城市立結城中学校
２年　高安　志織さん

環境学習フェスタを開催します

昨年度から始まりました「霞ケ浦環境科学センター環境学習フェスタ」については、本年度も平成２４年２月１８日（土）に開催いたします。

この催事は、児童生徒による「環境学習発表会」を主催事とし、併せてアクリルたわし教室やプランクトン観察などの各種体験型イベントを実施するものです。環境学習発表会については、センターと共に環境学習を行った児童生徒による成果発表であり、研修グループの皆様と共に学習を行った学校の発表も含まれております。ご都合がつけば是非ご覧いただければと思っております。

当日は早朝からの業務となりますが、パートナー各位のご協力を得て盛大に開催したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（センター：高橋）

パートナー湖上実践セミナー

平成２３年１１月２９日にパートナー湖上実践セミナーが開催されました。

午前中は遊覧船による霞ヶ浦湖上体験学習で、霞ヶ浦に関わる最近のトピックスなどの説明をうけながら、土浦港から湖心に船を進め、霞ヶ浦の水を採取し簡易水質検査などを体験しました。

午後は潮来市にある茨城県水郷県民の森に移動し、コナラやクヌギの雑木林、シイやカシなどの照葉樹の中を歩き、都市化の進展に伴い失われつつあるといわれる平地林を体感しました。

今回のセミナーは体験型の環境学習として県内の小中学生の団体などを対象に実施している「霞ヶ浦湖上体験スクール」をパートナーの方々にも体験してもらおうと実施したものですがパートナーの参加者が１２名と少なかったのが残念です。

（安川）

船上での水質検査

船を追いかけるユリカモメ

水郷県民の森

平成２３年度　パートナー全体交流会の予告

パートナー企画部会では、パートナーの皆さんとグループを超えた交流会を促進することを目的に、昨年同様パートナー全体交流会を開催致します。

昨年は、パートナー、センター関係者を含めて３１名の参加を頂き「宍塚の歴史と自然を守る会」の及川理事長による里山保全活動についての講演、そして霞ケ浦環境科学センター湖沼環境研究室の中村剛也氏による「霞ヶ浦のプランクトンについて」の講演もあり、パートナーにとって大変有意義な全体交流会となりました。

また、全体交流会に関するアンケートをとらせて頂いた結果、全体交流会への参加及びプログラムについては、「良かった」又は、「非常に良かった」と回答した人が全体の８４％を占め、参加して得ることがありましたかの質問にも、「得ることがあった」との多くの回答があり、研修・交流という目的はある程度達成されたと考えます。

今回は、講師として我々の仲間でもあるパートナーの新関紀文博士（農学）による「海の魚のにおい」についての講演と霞ケ浦環境科学センター湖沼環境研究室から『「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画(第６期)」(案)の概要』についての説明をして頂く予定です。また、普段のグループ活動ではなかなか知ることの少ない他グループの活動についても知って頂くために、昨年に続き各グループの活動紹介も行います。

開催日程は平成２４年２月２５日（土）を予定しておりますが、スケジュール等詳細は後日「パートナー全体交流会の開催について」の案内にて、ご連絡します。

普段は触れ合うことの少ない、他グループのパートナーの皆さんと交流を深める年１回の良い機会ですので、奮ってご参加いただけるようお願いします。

（パートナー企画部会：尾形）

平成２３年度秋季 植物グループ「湖岸植物 定点観察」パートナー活動の抄録

（文責：植物Ｇリーダー　有吉）

《H２３年９月 観察の概況》　観察日：2011-9-28（水）

関東地方を直撃した台風１５号の荒波により、湖岸沿いの植物群落がなぎ倒されていた。季節は実りの秋、ガガイモ、ビナンカズラ、ノブドウなどが実を着けており、赤い花のヒガンバナやミズアオイの薄紫の花が秋を感じさせる。

AB 区

ミズアオイ　ミズアオイ科　１年草
古名：ナギ（菜葱）。湖岸のハス田や水辺に生える水草。準絶滅危惧種。

EF 区

ヒガンバナ　ヒガンバナ科　球根植
初秋、葉も節もない花茎を地上に突出し、先端に花をつける。

GH 区

ノブドウ　ブドウ科　落葉つる性木
白、青、薄紫、色とりどりの実が秋の味覚をそそるがたべられない

《H２３年１０月 観察の概況》　観察日：2011-10-26（水）

湖岸ではアキノウナギツカミやアキノノゲシがおらが季節と花を開き、サクラタデやミソソバの群落がピンクの絨毯を作っていた。カラスウリやノイバラ、マユミの実も色付き始め、湖岸は“秋”真っ盛りの様相だ。

アキノウナギツカミ　タデ科１年草
秋の名がつく野草の１つ。湖岸の各所に群生が見られる。

ミソソバ　タデ科１年草
別名：ウシノヒタイ。葉がくびれるものが多く、牛の額に似る。

サクラタデ　タデ科１年草
花が桜に似ており、今年は多く咲いた。茎はシロバナサクラタデ程分岐しない。

《H２３年１１月 観察の概況》　観察日：2011-11-22（火）

気温の低下とともに秋が深まり、ヤナギ類、エノキ、クワ、タデ類、キク類、つる植物など多くが葉を枯らし始め、湖岸の植生帯は見通しが良くなってきた。その中でヨシやオギの白い穂が目立ち、風にたなびき種をまき散らしている。

ヨ　シ　イネ科多年草
太い地下茎を張り巡らし群生する。水質浄化に役立つと植栽を進める。

セイタカアワダチソウ　キク科多年草
黄金の花は白い冠毛を持つ果実となる。繁殖力が旺盛で大群生をつくる。

オ　ギ　イネ科多年草
ヨシと共に湖岸に群生する。ヨシより高く湿った所に群生をつくる。

ご近所探訪（７）----国指定重要文化財・椎名家住宅（かすみがうら市）

以前訪れた、旧出島村（かすみがうら市）の戸崎城址東方、加茂地区に国指定重要文化財（建築）の古民家、椎名家住宅がある。椎名家は寛永年間（１６２０年代　江戸初期）以前から当地に住み、代々茂右衛門を襲名し、村役も務めてきた旧家だそうだ。

真南から見た椎名家住宅全景。正面の左手が土間、真ん中当たりが広間で、右手が玄関（式台）で後方に座敷、寝間とつながる（平面図参照）。

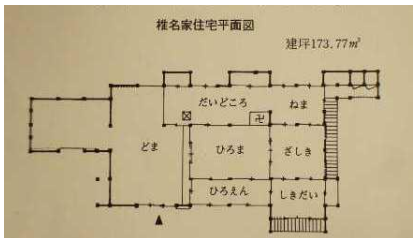
椎名家住宅への入り口左側には、四百年以上経っていそうな大きなエノキの古木が枝を広げていた。真っ直ぐ進むと広い前庭があり、寄せ棟、茅葺き屋根が建家の半分以上を占める古民家の前に立つことになる。屋根の棟飾りと、伝統的な「龍」と「寿」の文字を掲げた鬼板部分の屋根飾りが、目にとまる。

建物は直屋式（すごやしき＝通常は平面が長方形になっている。棟が真っ直ぐな屋根の形式）で、南面した向かって左側が土間で、右側が板敷きの広間があり、その奥に玄関（式台）、座敷、寝間と三部屋が並んでいる。「ひろま型」という、千葉県北部から茨城県南部にかけて分布する、東関東民家の典型的な造りのひとつといわれる。

前面の格子窓には丸竹を用いるなど、これも古い様式の遺構といわれる。曲がり材を使用した梁組みや、柱や板戸に残る蛤刃（はまぐりば）や、手斧（ちょうな）仕上げ、槍鉋（やりがんな）の作業痕ほか、梁構造を含めて、古民家の特色を示している。建築の専門家には、垂涎の遺構であろう。

昭和４５～４６年（１９７０～７１）に、総工事費１，３５７万円をかけて解体修理が行われた際、差鴨居（さしかもい＝普通の鴨居と違い梁のような太さをもつ鴨居。長押しを１本から造り出している）のホゾから、「延宝二年きのゑ寅１２月３日此当主椎名茂右衛門３７年」の墨書が発見され、延宝２年（１６７４）の建築であることが明らかになった。この紀年銘は、東日本最古の古民家として認定され、建築当時の姿に復元された。ちなみにその時期、加茂は土浦藩の所領で、藩主は土屋数直であった。

出島村加茂といえば、徳川光圀が巡遊した記録が残されている。光圀が西山荘に隠棲してから、また時期的には椎名家住宅が建てられてから２２年後の元禄９年（１６９６）２月１２日、「ししくら（現宍倉）の親戚や、あしき（現安食）などの寺々をご覧になり・・・」詩文や盃、仏画、経典、釈迦如来像などを残している「日乗上人日記」（太田久昌寺所蔵）。なおこの時の土浦藩主は、後の赤穂浪士討ち入り事件当時の老中、土屋政直である。



椎名家住宅の平面図（「出島村史」

これも蛇足だが、椎名家住宅と同様の直屋式古民家は、行方郡牛堀町（現潮来市）から移築された旧茂木家住宅（１８世紀前半築）が、茨城県立歴史館に保存されている。（資料：「出島村史」「霞ヶ浦町の文化財」ほか）

（図書Ｇ　　細谷　浩）

｛訂正｝第２４号のご近所探訪（番外篇）の中で、応永年間の表記に間違いがあり、正しくは応永年間（１３９４～１４２７）でした。

「第９回霞ヶ浦野外講座」が茨城放送で生中継されました

平成２３年１２月１４日（水曜日）に開催した第９回霞ケ浦野外講座が茨城放送で生中継されました。今回の講座では「筑波山麓の植物と湧水・渓流水」と題し約２㎞のコースを散策しました。センター福田講師の植物解説はもちろん、パートナー植物Ｇメンバーや一般参加者の方々にもインタビューに答えていただきました。

またこのような機会が訪れるかもしれませんので、皆さん奮ってご参加下さい。　　（センター：中根）

パートナーへのインタビュー

観察の様子

植物の解説

第２回　国際刻字芸術大展に参加して（その１）

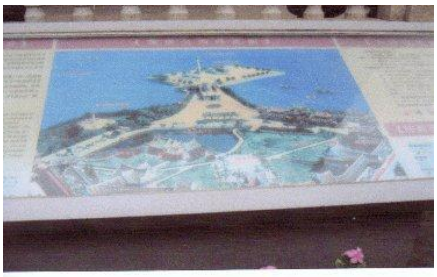
かつて刻字といえば、お寺や神社、それに大きな看板といったものが主でしたが、現代刻字は自書自刻、つまり自分の書に刻るという行為を附加して文字に立体感を持たせ、さらに豊かな表現ができればと念じている分野です。自分の部屋のインテリアとして、種々の用材・彩色を考え、そこにだけ存在する世の中に一点だけという満足感を味わうこともできます。

書は三千年の歴史を持っています。書体や書風を考えますと時代や個性によって無数ともいうべき変化があります。これを現代人の我々の眼と手法によって、現代の生活空間に活用し、融合させることができるとしたら、これこそ刻字の醍醐味でしょう。

10月６日

大学とグランド

厦門（アモイ）で開催された国際刻字芸術展に１０月６日より１０日までの予定で参加いたしました。厦門は中国福建省南東部、台湾海峡に面する港湾都市、古くから貿易港として発展、１７世紀ごろよりポルトガルなどの商人が往来、２０世紀に入って華僑の流出港として知られました。到着後、専用バスにて学園都市・集美学村の見学をしてからホテルに入りました。



陳嘉庚公園平面図

中国の教育は日本と同じく、６：３：３：４制です。学園都市に相応しくよく整備された街です。陳嘉庚の墓のある博物館を見学しました。ここでは三輪車の観光案内かあります。街全体は綺麗だなと感じました。記念碑は階段状のどっしりとした石組みでできており、観光客が上り下りする最初の階段は１２段で、人生は若いときに苦労をしなければならないと、次の１０段は成功しても過去を忘れずに頑張ること、次の８段は日本と戦争をした８年を刻み、次の３段は中国共産党と蒋介石と戦った３年をあらわしているとのことです。

日本との戦争８年

アモイ市の人口は２７０万人で、１９８０年に経済特区に指定され、これが起爆剤となって、発発展した都市です。道路には交通信号が非常に少なく、車は右側通行で車優先だそうです。

信号は日本と同じものと、矢印とタイマーが表示される信号です。またアモイ市の条例で車は緊急以外はクラクションを鳴らしてはいけないと定められ、鳴らした場合は罰金を科せられます。今はルールが守られているので条例は廃止になりましたとの説明がありました。車ですが１５００ｃｃ以下の車はあまり見かけませんでした。

三輪車タクシーの値段はお客の交渉次第

日本の車では、ホンダの車が多く見受けられ、続いてトヨタ車、次がニッサンとマツダですね。緑が豊かな街で、冬の平均気温は１５℃だそうです。雪も降らず生活がしやすいなと感じました。夜は、歓迎祝宴会がホテルレストランで行われ、例の「乾杯」が１０回前後行われました。私はあまり無理が出来ないのでなめる程度で対応いたしました。中国流ではそのつど飲み干すといわれています。

（パートナー　和知裕善）

デジタルカメラ（その5） 測光方式を理解しよう

カメラで被写体を撮影したとき、なんか暗過ぎて被写体が見えにくくなってしまったり、逆に明るすぎて白っぽくなってしまったことはありませんか？

○測光って何？

測光（そっこう）とは光を測るという意味です。カメラは適正な明るさの写真に仕上がるように、ファインダーに映る光の量や場所を測って絞り値やシャッター速度を調整してくれています。普段オートなので私たちが何気なく撮影している写真も、実はカメラは明るさを測って適正な露出になるように調整してくれているのです。

○測光方式

測光方式はいろいろあります。値段の高い高性能なカメラになればなるほど、方式を細かく選んだりすることもできますが、代表的なものを紹介します。

・評価測光・マルチパターン測光

カメラのメーカーによって言い方がいろいろ変わるので、多分割測光という場合もあります。ファインダーに映った画面に対してほぼ全画面の光を測りながら適正な露出を計算してくれます。一般的にデフォルトで設定されているモードで、普段このモードにしておけばOKです。

・中央重点測光

ファインダーの中央にあるものに重点をおいて測光し、露出値をカメラが決めてくれるモードです。ある程度周りの明るさも考慮してくれるので、ここぞという被写体が決まっているときには特に有効です。

・部分測光

メーカーによってはスポット測光のことを部分測光と表記する場合もあります。明暗差が大きいシーンや、逆光などが強く、被写体にしっかり明るさを合わせたいときに使用します。

・スポット測光

ごく一部の狭い範囲だけの光を測り、測光部分の露出が適正になるようカメラが設定してくれます。以前は高級機にしかついていないモードでしたが、最近は入門機でも搭載されています。他の部分の明るさは無視されるため、使いこなすには少しテクニックが必要なため、じっくり撮影する中・上級者向けのモードです。

通常は評価測光でOK。逆光時には部分測光も使える測光方式を選んで最適な露出条件を出すというのは、どちらかというと中級者以上向きです。通常は評価測光にしておけば問題ありません。ただし、明るい背景に人物写真などを撮影する場合は、どうしてもカメラが背景の明るさに合わせようとしてしまうため、人物が暗くなりすぎてしまいます。露出補正をするのも手ですが、部分測光にすることで被写体に明るさが合わせやすくなります。スポット測光は、ここぞと決めた場所に明るさを合わせます。慣れてくるとこちらの方が使いやすい方もいるようです。私もスポット測光をよく使っています。

（パートナー：目次）

アート炭焼き

容器の中に炭焼き材料を入れ、蓋をして特性竈（かまど）に乗せる。その下から火を焚きどんどん熱してゆく。

白煙・・・水蒸気含む / 青煙・・・材料が炭化始まる / 無色・・・炭化が完了し完全な炭になる

☆「アート炭焼きの場合は、煙が青色から無色に変わる直前ぐらいがベスト」

炭に焼く材料は何でも結構です。比較的硬めで、水分がなくなっても変形しない物が良い

準備品は、ブリキ製の蓋付き容器（中央に穴をあける）とブロック３枚。約１５分程度でブリキ容器の隙間から白煙が出始め、時間経過すると煙が変色する。
２５分経過し、青みを帯びた煙になってきた。

焼きあがった炭「松の葉」、「いがぐり」、「ヒイラギ」

（図書グループ：山中　章）

「パートナー情報誌　香澄」原稿募集

香澄編集部会では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味など何でも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れておいてください。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。

（パートナー情報誌「香澄」編集部会）